



まず、東金市にある道の駅みのりの郷東金を調査しました。道の駅と何がコラボレーションできるのか？また、道の駅を基点とし、地域に対し自分達学生に何ができるのか？ということについて考えるきっかけとなりました。



道の駅と連携しサイクルツーリズムを先進的に進めている地域（伊豆の国市）に赴き、その取り組みや課題についてお話を聞く機会を持つことができました。そして、どのように東金市に根付かせることができるのかということを考えるきっかけとなりました。

2

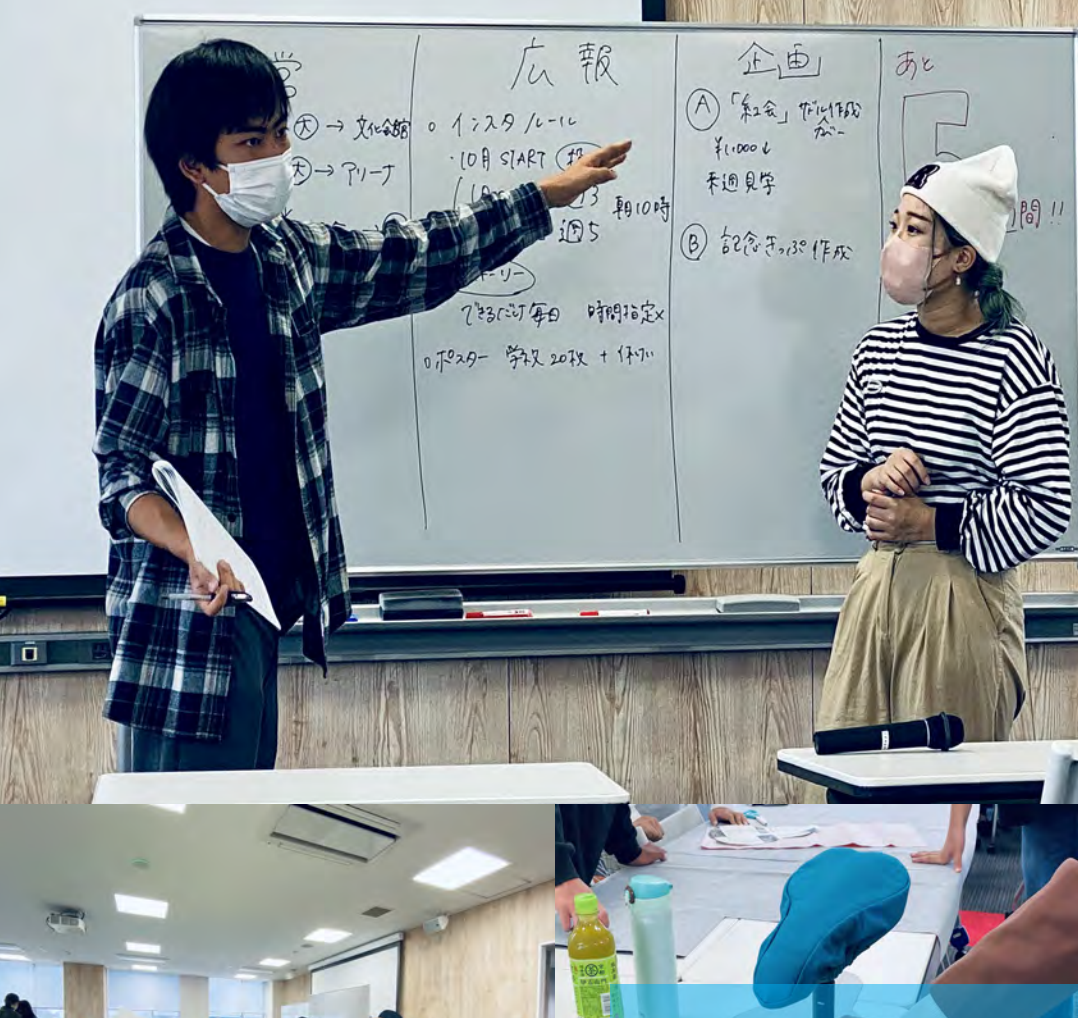


本プロジェクトは、これまで本学観光学部と経営情報学部が主体となり、国土交通省主幹の「道の駅と大学」連携プロジェクトの一環として、学部横断で実施してきた活動です。今回は、「道の駅」を基点に、東金市のような「もともと観光地ではない場所」に、サイクルツーリズムを通して観光のアクティビティをうむことを目指しています。同時に、そのアクティビティが、地域の活性化に寄与できればと考えます。ここでいうところの、地域の活性化とは、サイクリングを介して「また行きたい」「また来てほしい」の循環を生みたいというものです。

ちなみに、今回の自転車を活用した観光（サイクルツーリズム）を採用し実施するに至った経緯は、以下の3点からなります。一つ目は、車よりもゆっくりとした速さでまちを巡ることができるため、「地域内への回遊性を高める」ことができるツーリズムであることが挙げられます。実際に、東金市は、多くの観光拠点となるような要素が多く点在しているにもかかわらず、自動車の速度と東金市特有の町の構造との環境的ミスマッチから、観光に利用されてこなかった名所旧跡や飲食店が数多く存在しています。そこを、自転車で回遊することで再発見していこうと考えています。二つ目は、自転車が体験型スポーツとして健康促進につながるツーリズムを創出できることが理由として挙げられます。自転車は日常の移動手段でもあります。より積極的にスポーツとしての体験的価値を提供することで、観光に訪れた方々だけではなく、地元住民に対しても自転車の「スポーツによる健康効果」を提唱できるのではないのかと考えました。

そのこともあり、今回は、メリダジャパン株式会社様のアドバイスのもと、手軽に自転車をスポーツとして体験できる「e-bike（電動アシスト付き自転車）」を活用し、東金市の起伏ある地形にあった新しいサイクルツーリズムのコースを提案したいと考えました。三つ目は、今回のツーリズムに使用するモビリティ（＝自転車）が、排気ガスを出さず、地球環境への影響がないモビリティであることです。これは、SDGs（7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」、11「住み続けられるまちづくりを」）にもつながるものであり、環境への配慮は、これからの観光においても重要な視点となると考えます。

以上、自転車を活用した観光の特長に即し、「道の駅」を地域観光、地域振興の拠点として捉えることで、「パークアンドライド」を推進し、ゆっくりとした時間を過ごす観光を提唱したいと考えます。現代に求められている「新しい観光」としてのマイクロツーリズムのあり方とも言えるのではないのでしょうか。



東金市をはじめ近隣地域も含め、いろいろな魅力となる地域や施設、飲食などを調査し、サイクルツーリズムの立ち寄りにふさわしい場所を選定しました。そして、道の駅の方々と協議しコースを決定し、11/5にイベントを実行することとなりました。

3

東金市を中心とした サイクルツーリズムを推進する 活動 域学共創プロジェクト B team

- LEADER** Shimada Juan
- MEMBER** Aizawa Saki / Ando Tsubasa / Fukushima Karin
Hasegawa Hayate / Hoshino Yuka / Hukuyama Naho
Iguchi Shota / Ito Aoi / Kawamura Shizuku / Koichi Keisuke
Mizuguchi Kokoa / Nakama Taro / Nemoto Maki
Sasaki Ryotaro / Tajiri Tetsuya / Tomiyama Haruna
Uchiyama Ayana / Utsumi Karin
Yamamoto Mizuki / Yamazaki Tsumugi / Yoshida Harune

